

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区神田神保町3-29-1

今週の注目材料 = 9月の政策会合に向けて、ポイントをチェック

2019年8月26日

今週は、大きな材料に欠ける週になっています。
もっとも、9月のFOMCやECBで追加緩和期待が広がる中、
米国や欧州の重要指標には注目が集まりそうです。

まずは米国の指標を確認してみましょう。

26日には7月の米耐久財受注速報値が発表されます。
GDPの設備投資と関係が深い同指標。
4月、5月前月比マイナスとなった同指標は
前回6月に+1.9%と持ち直しました。
今回は+1.0%とやや鈍化もプラス圏を維持する見込みです。
米国の第2四半期GDPは予想ほどの鈍化を見せず
前期比年率+2.1%と底堅かった印象ですが、
設備投資に関しては2016年第1四半期以来初めてのマイナス圏となる-0.6%と
厳しい数字を記録しました。

第3四半期以降の持ち直しには設備投資の回復が望まれるだけに
底堅い数字が出てくるのかどうか注目されることです。

29日には米第2四半期GDPの改定値が発表されます。
速報値は個人消費が前期比年率+4.3%とかなり強めに出了ことで
設備投資や輸出の落ち込みをカバーして、
予想された前期比年率+1.8%よりは強めの数字となる+2.1%を記録。
もっとも第1四半期の+3.1%よりは鈍化しており、
トランプ大統領が経済成長の目標として挙げている3.0%にも遠い数字だけに
トランプ政権からFRBへの利下げ圧力につながる格好となりました。

今回は+2.0%と若干の鈍化見込み。

6月の卸売在庫が確報値ベースで下方修正、同企業在庫が5月から鈍化するなど
速報値発表以降の在庫関連の指標が弱めに出ており
在庫投資などが少し厳しい数字になりそうです。

予想程度の鈍化であれば織り込み済みとみられますが、
2%を割り込む数字が出てくようだと
FOMCでの0.50%の大幅利下げ期待が広がる形で
ドル売りが強まる可能性があります。

30日には7月のPCEデフレーターが発表されます。

13日に発表された7月の米消費者物価指数(CPI)は、
総合、コアの前年比が共に予想及び前回は上回る好結果となり
コアCPIは+2.2%の高水準となりました。

もっとも米国のインフレーターゲットの対象であり
金融政策動向への影響も大きいとみられる今回のPCEデフレーターは
総合で前年比+1.4%、コアで同1.6%と
共に前回と同様の水準にとどまると見込まれています。
ターゲットの2%にも遠く、

利下げのハードルにはならないとみられます。

比較的堅調な動きを見せる住居費の占める割合がCPIの約半分ということもありその点では前回並みという予想に違和感はありませんが、CPIの内訳をみると、被服、医療、中古車など幅広い分野で上昇が見られることからPCEも予想を超えての上昇を期待したいところ。予想を超えてきた場合、今後の追加利下げ期待を後退させる形でドル売りが広がりそうです。

続いて、9月の追加緩和期待の強いユーロの動向を見込みドイツの指標をみてみましょう。

26日には独Ifo景況感指数が発表されます。ドイツ最大のシンクタンクIfo経済研究所の調査によるこの指数はドイツでもっとも注目される指標の一つ。前回7月分は4か月連続の低下で6年強ぶりの低水準となる95.7を記録。GDPのマイナス成長と合わせ、リセッションに向かう独経済状況を意識される状況となりました。

今回は95.5と、小幅ながら5か月連続での低下が見込まれています。前回のように予想を大きく下回って弱い数字を示すようだと、ドイツ経済の先行き不透明感が広がり、ユーロ売りが強まる可能性があります。

13日に発表された前哨戦といわれるZEW景況感指数が予想の-28を大きく下回る-44.1。4か月連続の低下で、2011年以来の低水準となりました。エコノミストの予想レンジの下限をさらに下回る弱い数字となっただけに、Ifo景況感にも警戒感が見られます。

また、27日にはドイツ第2四半期GDPの速報値が発表されます。速報値ベースでマイナスとなった独GDP。その後の指標もいまいち冴えないことから今回の速報値では大きな変更なく速報値と同じ水準が見込まれています。こちらは予想程度の状況を織り込み済み。予想を下回り、速報よりもさらに弱く出た場合は要注意です。

29日にはドイツ消費者物価指数(8月・速報値)が発表されます。予想は前年比+1.5%ここ二か月連続で上昇していましたが5月以来の低い伸びとなりそうです。EU基準のCPI (HICP) は予想が+1.2%。前回は+1.1%と2016年11月以来の低い水準となりました。さすがに少し戻す見込みも、低水準は変わりありません。予想を下回り前回並みの数字が出てくると、ユーロ売りにつながる可能性も。

山岡和雅 | minkabu PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社/株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが保有し、著作権法その他の法律に基づき権利を保護いたします。本レポート

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカフ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。